



〈県議会第一回定例会〉

初めての一般質問 県の光を県西へ!!

傍聴席一杯熱い支援

去る3月24日、おざわ良央県議が神奈川県議会平成28年度第一回本会議で初の一般質問に登壇しました。「県西部にもっと県政の光を!」「身近な県政を!」と、多勢の支援傍聴者の声を背に、黒岩知事と緊迫した質問戦になりました。そのやりとりの一部をご紹介します。

① 市町間の合併及び広域連繋への県の関与について

知事 県西地域は社会的経済的勢いが減退傾向。広域連繋や合併の検討には、市町の考えを尊重しながら県として財政や人材面での支援をする。進めて欲しい。

② 都市農業を支える農地の基盤整備について

③ 小田原漁港整備による水産業活性化と地域振興

④ 地域の多様な資源を活用した観光振興について

⑤ 沿岸部の津波対策

知事 県は「最大規模の地震」の死者数半減を目指す。津波からの市町の避難対策や施設整備、情報発信体制を支援。県と市町、県民一体となり対策を充実する。

⑥ 神奈川と静岡を結ぶ県西地域の道路整備について

おざわ 県西部と伊豆、静岡方面を結ぶ現道は、休日渋滞や災害時の寸断リスクが多い。圏央道の開通等あり、新しい道路ネットワークを県主導で検討すべき。

知事 両県を結ぶ人・モノの流れが活

発化している。地元市町と連携して検討を始め、静岡側との情報交換も行いながら、道路ネットワークの強化に取り組む。

⑦ 小田原市内都市計画道路の整備促進を

県土整備局長 順次用地取得中。穴部国府津線は鉄道横断高架橋を計画、鉄道事業二者と、又城山多古線は坂下トンネル付近に送電用鉄塔あり東電と、両路線とも安全面を含め協議を進め、早期工事着手したい。

それぞれの知事答弁等に、再質問や強い要望を重ね、初質問を終了。小田原市や県西地域へ、より一層県政の光があたる、と確信した質問戦でした。

(要録は「タウンニュース」3月19日号に掲載)

〈県議会3月予算委員会〉

おざわ良央の主張

福祉・女性・経済に活力を



平成28年度県議会第1回定例会、3月予算委員会で、おざわ良央県議は、昨年10月に続いて2回目の予算委員会質問の機会を得ました。その概要をご紹介します。

1. 介護家族への支援体制の強化を

介護サービスにおける介護給付費の県負担は、10年前の1.7倍、850億円になる。在宅介護を望む高齢者は3割、人生の最後を自宅で、は半数を超える。一方、家族介護のための離職者増が社会問題となっている。



〈前頁より続く〉

- ①このような課題に対応した「地域包括ケア・システム」への支援の拡充を
- ②介護家族の心身の負担軽減を図る「レスパイト・ケア」の充実を
- ③要介護者の状況に応じて「通い」「訪問」「宿泊」のサービスをする「小規模多機能型居宅介護」の拡充を
- ④認知症の方の介護家族に対する支援増を

2. 女性の幸福度 NO.1 県をめざして

博報堂レポートによる「女性の幸福度ランキング」で神奈川県は9位（首都圏では唯一トップ10入り、第1位は沖縄県）。ランクの高い地域ほど出生率も高い。女性が働きやすく暮らしやすい社会、女性が生き生きと活躍できる社会へ向かって、多面的に対策を進めるべき

- ①「女性の活躍応援団事業」、「神奈川なでしこブランド事業」の取組推進を
- ②男性や若者達の意識啓発への取り組みの拡充を
- ③男性が女性の負担軽減を図れるよう企業への働きかけが大切。「ワーク・ライフ・バランス事業」を推進し「女性の幸福度 NO.1」神奈川県をめざすべき。

3. 県内経済の活性化について

県内経済の活性化には、国内外の優秀な企業誘致が必要。新たな施策「セレクト神奈川100」の推進を図るべき。特に県内の地域バランスを考慮して、県西地域等への誘致に特段の配慮を



広大な久野のJT跡地

- ①ロボット、エネルギー産業の他に、新たに未病産業、観光産業誘致に注力するというが、近隣他県との競争に負けないインセンティブが必要
- ②中小・中堅企業の立地促進施策も充実すべき
- ③県内全域で活性化の恩恵を。地域格差が生じない誘致策を工夫すべき
- ④市街化調整区域の土地利用の規制緩和等も検討し、企業誘致に向けた産業用地の確保等について、市町との連繋強化を

4. 中小・小規模企業支援について

神奈川県経済の土台は、事業所数99%の中小企業。競争力の高い企業誘致も大切だが、地域経済に大きく寄与する中小の元気には経営安定が必要。きめ細かな支援策を整備すべき

- ①新規施策「小規模企業応援隊」事業は県内すべての企業を対象にし、実情把握も商工会だけでなく、県も直接もっと現場に出るべき
- ②中小の人材育成にも支援を。例えば県立高校でのキャリア教育等も推進すべき
- ③中小の経営安定化へむけて、創業から経営革新、事業承継まで状況に応じた支援強化を

以上、3月予算委員会の論戦の概要ですが、それぞれの県回答に再質問や要望を付して、長時間に及ぶ有意義な質問戦を終えました。

県議会新所属決まる!!

常任委員会 環境農政常任委員会委員
特別委員会 経済活性化・産業振興特別委員会委員
その他 卸売市場審議会委員



神奈川のため 小田原のため

おざわ良史よしなが 県議 東へ奔る 西へ疾走る

「県立高校耐震化率全国ワースト1」（前号既報）に対して、おざわ県議も文教委員会で神奈川県現状の早期改善を強く求めてきたが、新年度予算で早くもその成果が表れ、「新まなびや計画」の中で、**校舎等の耐震化率100%早期達成**をめざし、**予算の大幅増額**が措置されました。



県政トピックス！

新年度(28年度)予算



県立高校の和式トイレがかねてより生徒の生活実態とかけ離れているとの指摘の中で、新年度以降全校の**トイレの洋式化**が決定。事前調査及び試行工事を実施。



県立**西湘体育センター**の耐震補強工事や外壁と照明設備の改修を、秋口より来年2月末まで実施。期間中は、体育館や一部施設の使用不可の状況も発生。ご理解を。



県内道路の道路標示、標識等が劣化し、交通事故の遠因とも言われてきましたが、**本年度より県内9,500カ所の横断歩道を塗り替える**ことに。



地域の防犯力強化の一環として、**防犯カメラ**を設置する民間団体へ、市町村と一体となって支援することになりました。



都市農業環境の維持保全にも県農政局の支援の手が。農業用排水路整備、農地保全、農道整備等を鬼柳、曾我別所、早川石橋地区等で実施。



県土木では、市内各所で今年度も工事を予定。**国道255号線飯泉橋の耐震補強**、補修工事、**銀座通りの電線類地中化**、国道135号（真鶴道路）**米神の越波対策工事**。また**酒匂川の河床堆積土砂除去工事**は市内流域5ヶ所で、**山王川では護岸工事**を。相模湾の越波対策、砂浜の浸食対策として、**国府津地域で護岸の改良**を小八幡地区等で**養浜工**を施工。



〈文教常任委員会報告〉

昨年12月の県議会文教常任委員会で、県立高校改革による再編統合計画の第一期計画が発表され、幸いにも今回は県西地域の統廃合該当校は無く、関係の皆さんも一安心です。しかし生徒数の減少が著しい当地域は次期以降、油断出来ない状況です。また2月、県立高校入試の採点ミスが発覚。あつてはならないことで、県教委の今後の対応が厳しく問われました。

県西地区 県立高校改革第一期 実施計画対象校一覧

校名	年度	実施計画
西湘高校	H28 から H29 から	プログラミング教育研究推進校に指定（3年間） 海外帰国生徒等別募集を実施 専門コース募集停止（理数コース）
山北高校	H29 から	専門コース募集停止（スポーツリーダーコース）
小田原高校	H28-29 H28 から	学力向上進学重点校（エントリー校） (H30 から指定校として10校程度を指定・3年間) グローバル教育研究推進校に指定（3年間）
足柄高校	H28 から H29 から	インクルーシブ教育実践推進校（パイロット校）に指定 知的障害のある生徒を受け入れ
小田原城北工業高校	H28 から	コミュニティ・スクールに指定
吉田島総合高校	H28 まで H29 から H31 から	総合学科（H29 から募集停止） 農業科を新設 生活科学科を新設
小田原総合ビジネス高校	H28 まで H29 から	「総合ビジネス科」（専門学科） 「総合ビジネス科」と「普通科」を併置
大井高校	H28 まで H29 から	全日制普通科 クリエイティブスクールとして生徒募集

水産業振興議連 小田原漁場現地調査

「水産業を振興する議員の会」では、去る5月、小田原漁場の現地調査を終日実施。県の漁業調査指導船「ほうじょう」等に乘船、定置網操業や小田原漁港整備事業、小田原魚市場等を視察。漁業組合や市場関係者とも意見交換。おざわ県議も地元の漁業振興のためにホスト役を務めた。



神奈川県農業技術センター 攻めのスマート農業視察

経営規模が小さい本県都市農業の未来を拓く切り札とも言える先端技術を研究、実証している県農業技術センターを、有志県議十数名で視察。野菜や果樹の生育環境をICT（コンピューターとセンサー）で、総合的に制御する温室を開発した本県のスマート農業の普及推進研究の成果を目のあたりにした。おざわ県議も大いに感銘を受けた。



熊本大地震救援募金
熊本大地震の被災地救援募金運動に、去る4月、おざわ県議は横浜駅西口、小田原駅頭に2日にわたって立った。多くの善意が寄せられた。